

## 【22\_289技術系メルマガ】「根拠は多ければ多いほどいい」のウソ

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

最近、色々と外野からゴチャゴチャ言われるのが億劫になって

トレードのツイートをしなくなってしまったのですが(検証材料にしてくれている方にはゴメンナサイ)

先週木曜日なのでちょっと前になりますが、朝活で綺麗なチャートを見かけたので、久々にトレードしました。

検証事例としては良いチャートなので、共有しますね。

▼AUDUSD(L) 結果:13.2pips▼

[https://kuro-gaki.com/2022\\_dayt/chart/221013\\_AUDUSD\\_L.png](https://kuro-gaki.com/2022_dayt/chart/221013_AUDUSD_L.png)

<目線>

D/どちらも空間は空いてる

H4/20SMAに向かって乖離空間20-30pips程

H1/下方向に全MA集中、20SMA上抜け揉み合いを経てのG2で押し目

⇒ロング方向で固定

<セットアップ>

M5/収縮確認、100MAタッチとM15/40-50MAタッチ連動

結局、いつもセットアップは待ち伏せるMAの組み合わせによって決まっているので

その展開が見えた時に上位方向の環境を確認し、問題なければエントリー。

ただこれを繰り返しているだけです。

派手さ、華やかさはありません。そこにあるのは、ただ僕なりに認識している『一貫性』のみです。

理解できない(しようとしない)人に向けてではなく、こうしてメールを読んで

僕の考えを汲み取ろうと向き合ってくれる人に向けて、僕は必要な情報を共有していきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

さて、今日の本題ですね。

トレードする時にマルチタイムフレーム分析で取り組んでいる皆さんなら

『複数の根拠を重ね合わせる』概念は、よくご存じだと思います。

ですがこれ、かなり誤用されているなあと感じることも多いものでもあります。

それはどういう意味なのか？というのが今日のメルマガのテーマです。

┌  
└─ ■ 根拠は『つながり』があって、初めて機能する

エントリーの根拠と呼ばれるものは、あらゆる手段をもって探し出せばそれこそ無数に見つかります。

インジケーターを変えれば、それなりの「根拠」は出てくるでしょうし

それこそMAだって、パラメーターを変えて「この時間足のこのMAにはタッチしてる！」とか

「結果を見て自分に都合の良い根拠を作る」ことは、やろうと思えば幾らでも出来てしまいます。

ですが、これまでずっと僕のメールを読んで『一貫性』の大事さを理解・実感してくれている皆さんでしたら

それがどう考えてもおかしな方法論であることは分かって頂けるかと思います。

▼当時のツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1580150100042522626?s=20&t=OZ2WzC1brFQaT9ewDNkvAQ>

つい最近、こんなツイートをしたわけですが

トレードする際に僕が『根拠』と読んでいるものは、十分な検証母数を集め、そのうえでフォワードテスト、実際のリアルトレードの収支結果まで確認して

『いつもこの規則が適合していれば、エントリーの理由になる』と

明確に確信しているものだけです。

それでも、相場がこちらの根拠を否定すれば僕のポジションはロスカットや建値になる場合もありますから

少なくとも、自分が納得するレベルまで『根拠』というものは煮詰めていかなければ

『継続的に稼ぐトレード』には使えないわけです。

相場において、自分以外の誰かに答えを求めてはいけません。

自分で決め、自分の判断に覚悟と責任を持てるレベルまで、検証とテストを重ねることが重要であることは

僕も含めて常に意識しておきたい事ですね。